

<巻頭言>

今改めて保健師の専門性とは—ジェネラリストというスペシャリティー—

丸谷美紀

国立保健医療科学院統括研究官

Reconsidering public health nursing: The generalist role of the public health nurse specialist

Miki Marutani

Research Managing Director, National Institute Public Health

—私たちは看護の入り口に立ったばかりです—

これは、60歳を前にしたナイチンゲールの言葉である。ナイチンゲールが看護の入り口に立ったばかりならば、私如きは看護の入り口にも達していない赤子のような存在と思う。

—看護に何ができるというのだろうか—

東日本大震災で被災地の支援に赴いた保健師は、被災の現実を目前にして思わずこの言葉を発した。大自然の力を突きつけられ、自分の力など無きに等しいと思えたのだろう。

—Stay hungry, stay foolish—

紹介するまでもなく、アップル社の創始者スティーブ・ジョブスがスタンフォード大学の卒業式で贈った言葉である。種々の解釈があるようだが、食欲で愚直であり続けよ、という意味ならば、赤子に等しく時に無力とも思える私たちが質の高い看護を提供するために必要な精神と思える。

食欲に愚直に自身を高めることは、闇雲に突き進むこととは異なるように思える。看護学は後発の学問ではあるが学術体系が整いつつあり、それに沿って愚直に努力すれば着実に力量を高めることはできるだろう。だが保健師は今、かつてないほど多くの複雑困難な健康問題や頻発する災害と対峙しており、既存の分野別学術体系では対応が難しくなっている。既存の学術体系を再構築し健康問題を総合的に対応するための公衆衛生看護学の開発が求められているように思える。果たしてこれは新たな公衆衛生看護の学問領域であろうか。むしろ黎明期より保健師が実践してきたこと、ジェネラリストとしての保健師の専門性ではないだろうか。

そこで、今改めて保健師の専門性を問いたく本特集を組んだ。まずジェネラリストの概念整理に始まり、個別、集団、地域づくり、災害対応、公共政策におけるジェネラリストの活動について論述する。最後に保健師への声援ともいえる論文で幕を下ろす。

今一度、保健師の専門性に立ち返り、いかなる時代が来ようとも看護の本質を見失わず、赤子に等しく時に無力であることを顧み続け、食欲に愚直に努力し続けたい。

—進歩し続けない限りは、後退していることになるのです—

E ナイチンゲール